

母牛と子牛の移行期 パートⅡ

～胎児への影響を考慮する～

全酪連は、2017年2月にイリノイ大学畜産学部教授 ジェームス K・ドラックレイ博士を招聘し、全国6会場にて、全酪連酪農セミナー（平成28年度）を開催いたします。講師のドラックレイ博士は、哺育・育成牛、移行期牛の栄養学の分野において世界的に権威のある研究者です。また、普及事業にも熟練し、酪農現場の飼養管理改善に精力的に力を注いでいます。今回のセミナーでは、胎児への影響に焦点をあて「母牛と子牛の移行期管理」を正しく理解する内容とし、2010年の同博士によるセミナーに続き、最新の技術情報を総括してご紹介する予定です。また、セミナーとは別に研究者・指導者の皆様向けに最先端情報を発信するワークショップも開催します。是非ご参加ください。

内 容

酪農セミナー 2017

第1章 移行期牛の栄養

- エネルギー摂取のコントロール
- 乾乳 1 群・2 群管理と飼料
- 蛋白質・アミノ酸栄養の推奨
- ミネラルの推奨・DCAD・粗飼料のミネラル
- 乾乳用 TMR 調整のポイント

第2章 胎児への影響

- 妊娠中の母牛の栄養がその子牛に長期的に及ぼす影響
- 母牛の暑熱ストレスが胎児に及ぼす影響
- 乾乳牛栄養が出生後の子牛の代謝機能に及ぼす影響

第3章 新生子牛の環境への対応

- 新生子牛の生理と環境温度への対応
- 母牛の栄養状況が生まれた子牛の体温維持に影響する
- 難産が子牛の生存能力に及ぼす影響・体温維持・免疫グロブリン吸収・酸欠

第4章 哺育子牛の栄養と管理

- 子牛の栄養要求量（エネルギーと蛋白質）
- 哺乳子牛の消化機能とその発達
- ルーメンの発達とカーフスターター

第5章 哺育期栄養の長期的な影響

- 哺育期の栄養による刺激と影響
- 海外および日本国内の泌乳データ
- 和牛子牛への“強化”哺育プログラム研究データ紹介

ワークショップ 2017

第1章 移行期牛のアミノ酸栄養

- 移行期牛におけるアミノ酸栄養の課題（蛋白質絶対量・バイパス蛋白質・アミノ酸）
- アミノ酸栄養と肝機能
- バイパスアミノ酸製品の研究データ

第2章 初乳品質と量の管理

- 初乳品質とその量に関する課題
- 初乳生成のメカニズム
- 初乳生産と乾乳牛栄養、その他の要因

第3章 牛における胎児プログラミング

- 母牛のミネラル・ビタミン充足の影響
- 子宮内環境と代謝プログラミング
- 代謝プログラミングのメカニズム・エピジェネティック効果

第4章 哺育・育成におけるアミノ酸利用

- 離乳前の子牛のアミノ酸要求
- 強化哺育の効果
- 将来の NRC 子牛モデル開発
- 非乳蛋白由来の蛋白源とその問題点



講師 ジェームス K・ドラックレイ博士
イリノイ大学 畜産学部教授

【経歴】

1981 年 サウスダコタ州立大学 卒業
1985 年 同 修士号取得
1989 年 アイオワ州立大学 博士号取得
1989-1995 年 イリノイ大学 助教授
1995-2000 年 同 准教授
2001～現在 同 教授

【受賞】

1993 年 ベッカー賞・大学畜産学部における教育とコンサルティング
1997 年 ADSA・アグウェイ農協若手酪農科学者賞
1998 年 エース大学・大学教授としての卓越した研究賞
1998 年 ADSA 基金 研究者賞
2000 年 イリノイ州立大学 畜産学部・ベックマンアソシエイト賞
2000 年 ADSA（米国酪農学会）中西部地区革新的酪農研究賞
2000 年 イリノイ州立大学 畜産学部・ミッチェル賞
学生教育と研究賞 他数多くの賞を受賞

【研究領域】

- 乳牛の脂質代謝
- 移行期牛のマイクロアレイ遺伝子発現解析パターン
- 乳牛における脂肪肝とケトシスの病因論
- 家畜のペルオキシソーム性β酸化
- 反芻動物による脂肪の利用
- 乳脂肪組成に影響する要因（CLA 含）
- 離乳前子牛の栄養要求（“強化”哺育）

開催日時と場所

2月3日金	【仙台セミナー】 江陽グランドホテル
2月6日日	【名古屋セミナー】 名鉄ニューグランドホテル
2月8日水	【熊本セミナー】 菊南温泉ユウベルホテル
2月9日木	【岡山セミナー】 岡山国際交流センター
2月13日月	【帯広セミナー】 北海道ホテル
2月14日火	【ワークショップ】 北海道ホテル
2月16日木	【東京セミナー】 アジュール竹芝

各会場とも開会は10:00、閉会16:00となります

参加費 1名様 ¥5,000
(テキスト・昼食代含む)

対 象 酪農家・組合役職員・公的指導機関、あるいは研究者・獣医師・コンサルタントの方々